

さくら第530号

令和 6年2月

# さくら

発行所 さくらそらばん  
発行者 平瀬 重雄  
春江町境 17-7:TEL51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jp

道は自分で  
つくる  
道は自分で  
つくる  
道は自分で  
つくる  
道は自分で  
つくる  
道は自分で  
つくる

## 『信号機とそれぞれのルール』

日本では道路のいたるところに「信号機」が取り付けられています。信号機の役割は、交通事故の防止、交通の流れをよくする、交通環境の改善があげられ、車用と歩行者用があります。

1919年(大正8年)に東京の上野広小路交差点で、木の板に「トマレ」、「ススメ」と文字を書き、これを回転させて使用したのが初めてといます。電気を使った信号機は1930年(昭和5年)に東京の日比谷交差点に設置されたのが初めてで、アメリカから輸入されました。

車用のヨコ型信号機は、左から青、黄、赤であり、タテ型は上から赤、黄、青の円形の発光面を持ちます。歩行者用は、青と赤の四角形の発光面を持ち、白熱球からLEDに替わったことで消費電力が約90%安くなりました。

赤、黄、青色は波長が長く遠くからでも見えやすく特に赤は見る神経を強く刺激するとい、信号がかわるサイクルは、青が90秒、黄が3秒、赤が48秒のサイクルで変わります。

信号機の設置価格は、本体は約120万円ですが、交通事故などで壊れた時には信号柱や制御盤などの修理代金として300万円から400万円を請求されるそうです。

目の不自由な人が安心してわたれるように、「カッコー」という音が鳴るのは広い道路用で、狭い道用には「ピヨピヨ」と鳴く音が流れる音響式信号があります。

ところで、不思議に感ずることがあります。緑色なのになぜ「青」というのでしょうか。日本では、元々「緑色」という思いがうすく、青葉、青

りんご、青々とした新緑などと、緑色を「青」と呼ぶ習慣が根強く、青信号という呼び名が自然に定着したようです。緑色なのに「青汁」などというのもその一例です。

初めて設置された信号機を見て、ある新聞社で「青」と掲載したことも一つの要因です。

高速道路には信号機はありませんが、所どころに道路情報を示す案内板や、交通渋滞や事故などを示す電光掲示板があります。初めて行く所などでは交通標識がとても役立ち安全に無駄なく安心して進めます。

雪が降ると道路の通行できる幅が狭くなります。早朝に除雪車が通り、かき分けた雪は左右によけられ大きく硬い壁になり、さらに通行幅がせまくなります。雪国の信号機はタテ型が多いのは、雪の重みを少しでも減るようにと積雪面を少なくしたタテ型です。

雪道ではスノータイヤが必要であり、大型のトラックなどではタイヤにチェーンを装着してスリップ事故を起こさないようにしています。

信号機は車の流れをスムーズかつ安全性を高めるために設置されていますが、交通ルールを皆が守ることが前提です。

日々の生活のなかでは多様なルールがありそれらを守ることとなり立っています。学校や部活動などにも守るべきルールがあり、個人勝手にすることはできません。多くの人たちが安全で安心し、気持ちよく過ごすためには互いが助け合い協力することで元気よく楽しく前進できます。

検定試験では受験料を期日までにおさめ、試験当日には会場をまちがえず、開始時間30分前には着席し、指慣らしをしてよい状態で計算できるように心の準備も大切です。トイレも済ませておきます。何より大事なことは鉛筆をいつもきれいに削っておくことです。芯の先が丸くて短いのでは、はっきりした数字が書けず×になりやすいです。その場、その時々にとったルールを活かしてよい結果を得ようふだんから怠らず、がんばってください。全ては自分の成長につながります。

水仙の香やこぼれても

雪の上

季語 水仙

加賀千代女